NFSトランキングの管理

ONTAP 9

NetApp
February 12, 2026

目次

NFSトランキングの管理

ONTAP NFSトランキングについて学ぶ

ONTAP 9.14.1以降では、NFSv4.1クライアントでセッション トランキングを利用してNFSサーバ上の異なるLIFへの複数の接続を確立できます。これにより、データ転送速度が向上し、マルチパスにより耐障害性が強化されます。

トランキングは、FlexVolボリュームをトランキング対応のクライアント（特にVMwareクライアントやLinuxクライアント）にエクスポートする場合や、NFS over RDMA、TCP、pNFSで便利な機能です。

ONTAP 9.14.1では、トランキングは単一ノード上のLIFに制限されます。複数のノードにわたるLIFを対象にしたトランキングはできません。

FlexGroupボリュームでは、トランキングがサポートされています。トランキングによるパフォーマンス向上は可能ですが、FlexGroupボリュームへのマルチパス アクセスは単一のノードにしか設定できません。

このリリースのマルチパスでサポートされるのは、セッション トランキングのみです。

トランキングの使用方法

トランキングが提供するマルチパスのメリットを活用するには、トランキング対応のNFSサーバを含むSVMに関連付けられた、_トランキンググループ_と呼ばれるLIFのセットが必要です。トランキンググループ内のLIFは、クラスタ内の同じノードにホームポートを持ち、それらのホームポート上に配置されている必要があります。ベストプラクティスとして、トランキンググループ内のすべてのLIFを同じフェイルオーバーグループのメンバーにすることをお勧めします。

ONTAPでは、1つのクライアントからノードあたり最大16のトランク接続がサポートされます。

クライアントでトランキング対応サーバからのエクスポートをマウントする場合は、トランキング グループ内のLIFのIPアドレスの数を指定します。クライアントが1つ目のLIFに接続したあとで追加されたLIFは、NFSv4.1セッションのみに追加され、トランキング グループの要件を満たしていればトランキングに使用されます。クライアントでは、独自のアルゴリズム（ラウンドロビンなど）に基づいて、NFS処理が複数の接続に分散されます。

最大限のパフォーマンスを引き出すには、シングルパス エクスポートではなく、マルチパス エクスポート専用のSVMにトランキングを設定します。つまり、トランキング対応クライアントのみにエクスポートを提供しているSVM内のNFSサーバのみでトランキングを有効にします。

サポート対象のクライアント

ONTAP NFSv4.1サーバでは、NFSv4.1セッション トランキングを実行できる任意のクライアントとのトランキングがサポートされます。

次のクライアントは、ONTAP 9.14.1でテスト済みです。

- VMware - ESXi 7.0U3F以降
- Linux - Red Hat Enterprise Linux（RHEL）8.8および9.3

RHEL NFSクライアントは、フェイルオーバーイベント（コントローラフェイルオーバーなど）でトランクLIFが別のノードに移行された場合、トランキングを再確立しません。LIFが別のノードに移行されると、トランキンググループから削除されます。トランキンググループ内のすべてのLIFが移行された場合、NFSクライアントは最初のLIFのみを使用してI/Oを続行します。

NFSサーバでトランキングを有効にしている場合、トランキングをサポートしていないNFSクライアントでエクスポートされた共有にアクセスすると、パフォーマンスが低下することがあります。これは、SVMデータLIFへの複数のマウントに使用されるTCP接続が1つしかないためです。

NFSトランキングとnconnectの違い

ONTAP 9.8以降、NFSv4.1が有効になっている場合はデフォルトでnconnect機能を使用できます。nconnect対応クライアントでは、1つのNFSマウントで1つのLIFを介して複数（最大16）のTCP接続を確立できます。

一方、トランキングは、複数のLIFを介して複数のTCP接続を提供する_マルチパス_機能です。環境内で追加のNICを使用できる場合、トランキングはnconnectの能力を超える並列処理とパフォーマンスの向上を実現します。

"nconnect"についての詳細をご覧ください。

トランキング用に新しいNFSサーバとエクスポートを設定する

ONTAP SVM上にトランキング対応のNFSサーバを作成する

ONTAP 9.14.1以降では、NFSサーバでトランキングを有効にできます。NFSv4.1は、NFSサーバの作成時にデフォルトで有効になります。

開始する前に

トランキング対応のNFSサーバを作成するには、SVMが必要です。SVMが次の条件を満たしている必要があります。

- クライアントのデータ要件を満たす十分なストレージがある
- NFS対応である

既存のSVMを使用できますが、トランキングを有効にするにはすべてのNFSv4.xクライアントを再マウントする必要があるため、システムが停止する可能性があります。再マウントが不可能な場合は、NFSサーバ用に新しいSVMを作成します。

手順

1. 条件を満たすSVMが存在しない場合は、作成します。

   ```
   vserver create -vserver svm_name -rootvolume root_volume_name -aggregate
   aggregate_name -rootvolume-security-style unix -language C.UTF-8
   ```

2. 新しく作成したSVMの設定およびステータスを確認します。

   ```
   vserver show -vserver svm_name
   ```

"SVMの作成"についての詳細をご覧ください。

3. NFSサーバを作成します。

   ```
   vserver nfs create -vserver svm_name -v3 disabled -v4.0 disabled -v4.1 enabled
   -v4.1-trunking enabled -v4-id-domain my_domain.com
   ```

4. NFSが実行されていることを確認します。

   ```
   vserver nfs status -vserver svm_name
   ```

5. NFSが必要に応じて設定されていることを確認します。

   ```
   vserver nfs show -vserver svm_name
   ```

   "NFSサーバ構成。"の詳細

終了後の操作

必要に応じて、次のサービスを設定します。

- "DNS"
- "LDAP"
- "Kerberos"

ONTAPのNFSトランキングに向けたネットワークの準備

NFSv4.1トランキングのメリットを享受するには、トランキング グループ内のLIFが同じノードにあり、ホーム ポートが同じノード上にある必要があります。LIFは、同じノードのフェイルオーバー グループに構成されている必要があります。

タスク概要

LIFとNICを1対1でマッピングするとパフォーマンスが最大限に向上しますが、トランキングを有効にする必要はありません。少なくとも2枚のNICを取り付けるとパフォーマンス上のメリットが得られますが、必須ではありません。

トランキング グループ内のすべてのLIFは、同じフェイルオーバー グループに属している必要があります。同じノードのフェイルオーバー グループにLIFが設定されている場合、そのノードでコントローラ フェイルオーバーが発生すると、LIFがオフラインになる可能性があることに注意してください。同じノードのフェイルオーバー グループにLIFが設定されておらず、別のノードにフェイルオーバーした場合、トランキングは機能しなくなります。

フェイルオーバー グループからの接続（と基盤になるNIC）を追加または削除する際には、常にトランキング フェイルオーバー グループの調整が必要になります。

開始する前に

- フェイルオーバー グループを作成するには、NICに関連付けられているポート名を確認しておく必要があります。
- すべてのポートが同じノード上にある必要があります。

手順

1. 使用するネットワーク ポートの名前とステータスを確認します。

```
network port show
```

2. フェイルオーバー グループを作成します。

```
network interface failover-groups create -vserver <svm_name> -failover-group
<failover_group_name> -targets <ports_list>
```

フェイルオーバー グループは必須ではありませんが、作成しておくことが強く推奨されます。

- `<svm_name>`は、NFSサーバを含むSVMの名前です。
- `<ports_list>`は、フェイルオーバー グループに追加されるポートのリストです。

  ポートは `<node_name>:<port_number>`の形式で追加されます。例： `node1:e0c`

  次のコマンドは、vs1というSVMにfg3というフェイルオーバー グループを作成してポートを3つ追加します。

  ```
  network interface failover-groups create -vserver vs1 -failover-group fg3
  -targets cluster1-01:e0c,cluster1-01:e0d,cluster1-01:e0e
  ```

  "フェイルオーバーグループ。"の詳細

  `network interface failover-groups create`
  の詳細については、link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/network-interface-failover-groups-create.html["ONTAPコマンド リファレンス"^]をご覧ください。

3. 必要に応じて、トランキング グループのメンバー用のLIFを作成します。

```
network interface create -vserver <svm_name> -lif <lif_name> -home-node
<node_name> -home-port <port_name> -address <IP_address> -netmask <IP_address>
[-service-policy <policy>] [-auto-revert <true|false>]
```

- `-home-node` - LIFでnetwork interface revertコマンドが実行されたときにLIFが戻るノード。

  `-auto-revert`オプションを使用して、
  LIFがホームノードとホームポートに自動的にリバートするかどうかも指定できます。

- `-home-port`は、LIFでnetwork interface revertコマンドが実行されたときにLIFが戻る物理ポートまたは論理ポートです。
- IPアドレスは`-address`オプションと`-netmask`オプションで指定できますが、`-subnet`オプション

では指定できません。

- IPアドレスを割り当てる際に、異なるIPサブネット上にクライアントまたはドメインコントローラが存在する場合は、ゲートウェイへのデフォルトルートの設定が必要になることがあります。 `network route create`およびSVM内でのスタティックルートの作成方法の詳細については、"ONTAPコマンドリファレンス"をご覧ください。
- `-service-policy` - LIFのサービスポリシー。ポリシーが指定されていない場合は、デフォルトのポリシーが自動的に割り当てられます。 `network interface service-policy show`コマンドを使用して、利用可能なサービスポリシーを確認してください。
- `-auto-revert` - 起動時、管理データベースのステータス変更時、ネットワーク接続時などの状況下で、データLIFをホームノードに自動的に戻すかどうかを指定します。デフォルト設定はfalseですが、環境のネットワーク管理ポリシーに応じてtrueに設定できます。

  トランキング グループ内のすべてのLIFについて、この手順を繰り返します。

  次のコマンドは、ノード `cluster1_01`のポート `e0c`上で、SVM `vs1`用の `lif-A`を作成します：

  ```
  network interface create -vserver vs1 -lif lif-A -service-policy default-
  intercluster -home-node cluster1_01 -home-port e0c -address 192.0.2.0
  ```

"LIF の作成。"の詳細

4. LIFが作成されたことを確認します。

   ```
   network interface show
   ```

5. 設定したIPアドレスに到達できることを確認します。

対象	方法
IPv4 アドレス	`network ping`
IPv6アドレス	`network ping6`

関連情報

- "network ping"
- "ネットワーク インターフェイス"
- "network port show"

ONTAPボリュームエクスポートポリシーを作成する

データ共有へのクライアント アクセスを提供するには、ボリュームを1つ以上作成し、少なくとも1つのルールが設定されたエクスポート ポリシーをボリュームに設定する必要があります。

クライアントのエクスポート要件：

- Linuxクライアントでは、トランキング接続ごと（つまりLIFごと）に、それぞれ独立したマウントとマウント ポイントが必要です。

- VMwareクライアントでは、エクスポートされたボリュームに対して、複数のLIFが指定されたマウントポイントが1つだけ必要です。

  VMwareクライアントでは、エクスポート ポリシーにルート アクセスが必要です。

手順

1. エクスポート ポリシーを作成します。

   ```
   vserver export-policy create -vserver svm_name -policyname policy_name
   ```

   ポリシー名に指定できる文字数は最大256文字です。

2. エクスポート ポリシーが作成されたことを確認します。

   ```
   vserver export-policy show -policyname policy_name
   ```

   例

   次のコマンドは、vs1という名前のSVM上にexp1という名前のエクスポート ポリシーを作成し、その作成を確認します：

   ```
   vs1::> vserver export-policy create -vserver vs1 -policyname exp1
   ```

3. エクスポート ルールを作成して既存のエクスポート ポリシーに追加します。

   ```
   vserver export-policy rule create -vserver svm_name -policyname policy_name
   -ruleindex integer -protocol nfs4 -clientmatch { text | "text,text,…" }
   -rorule security_type -rwrule security_type -superuser security_type -anon
   user_ID
   ```

   > `-clientmatch`パラメータは、エクスポートをマウントするトランキング対応のLinuxまたはVMwareクライアントを識別する必要があります。

   "エクスポートルールを作成します。"の詳細

4. ジャンクション ポイントを設定してボリュームを作成します。

   ```
   volume create -vserver svm_name -volume volume_name -aggregate aggregate_name
   -size {integer[KB|MB|GB|TB|PB]} -security-style unix -user user_name_or_number
   -group group_name_or_number -junction-path junction_path -policy
   export_policy_name
   ```

   "ボリュームを作成します。"について学ぶ

5. 目的のジャンクション ポイントでボリュームが作成されたことを確認します。

   ```
   volume show -vserver svm_name -volume volume_name -junction-path
   ```

NFSトランキング用のONTAPボリュームまたはデータ共有をマウントする

トランキングをサポートするLinuxクライアントとVMwareクライアントは、トランキングが有効になっているONTAP NFSv4.1サーバからボリュームやデータ共有をマウントできます。

"サポート対象のクライアント"について学びましょう。

Linuxクライアントの要件

ONTAP 9.16.1以降とLinuxクライアントとしてRed Hat Enterprise Linuxバージョン8.7以降（RHEL 8の場合）または9.2以降（RHEL 9の場合）を使用している場合、トランキンググループに必要なマウントポイントは1つだけです。エクスポートしたボリュームをマウントするには、次のコマンドで `trunkdiscovery`オプションを使用します：

```
mount <lif_ip>:<volume_name> </mount_path> -o trunkdiscovery,vers=4.1
```

それ以外の場合は、トランキンググループ内の接続ごとに個別のマウントポイントが必要です。`max_connect`オプションを使用して、次のようなコマンドでエクスポートされたボリュームをマウントします：

```
mount <lif1_ip>:<volume_name> </mount_path1> -o vers=4.1,max_connect=16
```

```
mount <lif2_ip>:<volume_name> </mount_path2> -o vers=4.1,max_connect=16
```

バージョン(vers）の値は `4.1`以降である必要があります。

`max_connect`値はトランキンググループ内の接続数に対応します。

VMwareクライアントの要件

トランキング グループ内の各接続のIPアドレスを含むMOUNTステートメントが必要です。

エクスポートしたデータストアをマウントするには、次のようなコマンドを使用します。

```
#esxcli storage nfs41 -H lif1_ip, lif2_ip -s /mnt/sh are1 -v nfs41share
```

`-H`値はトランキング グループ内の接続に対応します。

既存のNFSエクスポートをトランキング用に調整する

ONTAP NFSトランキング用にシングルパスエクスポートを適応させる

既存のシングルパス（非トランク）NFSv4.1エクスポートを、トランキングを使用するように調整できます。トランキング対応クライアントでは、サーバでトランキングが有効になると、すぐにパフォーマンス向上のメリットが現れます。ただし、サーバとクライアントの前提条件が満たされている必要があります。

シングルパス エクスポートをトランキング向けに調整すると、エクスポートされたデータセットを既存のボリュームやSVMに保持できます。これを行うには、NFSサーバでトランキングを有効にし、ネットワークとエクスポートの設定を更新し、エクスポートした共有をクライアントに再マウントする必要があります。

トランキングを有効にすると、サーバが再起動されます。VMwareクライアントは、エクスポートされたデータストアを再マウントする必要があります。Linuxクライアントは、エクスポートされたボリュームを`max_connect`オプションを使用して再マウントする必要があります。

ONTAP NFSサーバでトランキングを有効にする

トランキングは、NFSサーバで明示的に有効にする必要があります。NFSv4.1は、NFSサーバの作成時にデフォルトで有効になります。

トランキングを有効にしたら、必要に応じて次のサービスが設定されていることを確認します。

- "DNS"
- "LDAP"
- "Kerberos"

手順

1. トランキングを有効にし、NFSv4.1が有効になっていることを確認します。

   ```
   vserver nfs create -vserver svm_name -v4.1 enabled -v4.1-trunking enabled
   ```

2. NFSが実行されていることを確認します： `vserver nfs status -vserver svm_name`
3. NFSが必要に応じて設定されていることを確認します。

   ```
   vserver nfs show -vserver svm_name
   ```

   "NFSサーバ構成。"の詳細をご覧ください。この SVM から Windows クライアントにサービスを提供している場合は、共有を移動してからサーバを削除します。 `vserver cifs show -vserver svm_name`

   + `vserver cifs delete -vserver svm_name`

ONTAP NFSトランキング用にネットワークを更新する

NFSv4.1トランキングのメリットを享受するには、トランキング グループ内のLIFが同じノードにあり、ホーム ポートが同じノード上にある必要があります。LIFは、同じノードのフェイルオーバー グループに構成されている必要があります。

タスク概要

LIFとNICを1対1でマッピングするとパフォーマンスが最大限に向上しますが、トランキングを有効にする必要はありません。少なくとも2枚のNICを取り付けるとパフォーマンス上のメリットが得られますが、必須ではありません。

トランキング グループ内のすべてのLIFは、同じフェイルオーバー グループに属している必要があります。同じノードのフェイルオーバー グループにLIFが設定されている場合、そのノードでコントローラ フェイルオーバーが発生すると、LIFがオフラインになる可能性があることに注意してください。同じノードのフェイルオーバー グループにLIFが設定されておらず、別のノードにフェイルオーバーした場合、トランキングは機能しなくなります。

フェイルオーバー グループからの接続（と基盤になるNIC）を追加または削除する際には、常にトランキング フェイルオーバー グループの調整が必要になります。

開始する前に

- フェイルオーバー グループを作成するには、NICに関連付けられているポート名を確認しておく必要があります。
- すべてのポートが同じノード上にある必要があります。

手順

1. 使用するネットワーク ポートの名前とステータスを確認します。

   ```
   network port show
   ```

   `network port show`の詳細については、link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/network-port-show.html["ONTAPコマンド リファレンス"^]を参照してください。

2. トランキング フェイルオーバー グループを作成するか、既存のフェイルオーバー グループを変更します。

   ```
   network interface failover-groups create -vserver <svm_name> -failover-group
   <failover_group_name> -targets <ports_list>
   ```

   ```
   network interface failover-groups modify -vserver <svm_name> -failover-group
   <failover_group_name> -targets <ports_list>
   ```

   フェイルオーバー グループは必須ではありませんが、作成しておくことが強く推奨されます。

   - `<svm_name>`は、NFSサーバを含むSVMの名前です。
   - `<ports_list>`は、フェイルオーバー グループに追加されるポートのリストです。

     ポートは`<node_name>:<port_number>`の形式で追加されます（例： `node1:e0c`）。

     次のコマンドは、SVM vs1 のフェイルオーバー グループ `fg3`を作成し、3 つのポートを追加します：

     ```
     network interface failover-groups create -vserver vs1 -failover-group fg3
     -targets cluster1-01:e0c,cluster1-01:e0d,cluster1-01:e0e
     ```

"フェイルオーバーグループ。"の詳細

3. 必要に応じて、トランキング グループのメンバー用のLIFを追加で作成します。

```
network interface create -vserver <svm_name> -lif <lif_name> -home-node
<node_name> -home-port <port_name> -address <IP_address> -netmask <IP_address>
[-service-policy <policy>] [-auto-revert <true|false>]
```

   - `-home-node` - LIFでnetwork interface revertコマンドが実行されたときにLIFが戻るノード。

     `-auto-revert`オプションを使用して、LIFがホームノードとホームポートに自動的に復帰するかどうかを指定できます。

   - `-home-port`は、LIFでnetwork interface revertコマンドが実行されたときにLIFが戻る物理ポートまたは論理ポートです。
   - `-address`および`-netmask`オプションを使用してIPアドレスを指定できます。
   - IPアドレスを手動で割り当てる場合（サブネットを使用せず）、クライアントまたはドメインコントローラが異なるIPサブネット上にある場合は、ゲートウェイへのデフォルトルートの設定が必要になることがあります。 `network route create`コマンドページには、SVM内でのスタティックルートの作成に関する情報が記載されています。"ONTAPコマンド リファレンス"の `network route create`の詳細をご覧ください。
   - `-service-policy` - LIFのサービスポリシー。ポリシーが指定されていない場合は、デフォルトのポリシーが自動的に割り当てられます。 `network interface service-policy show`コマンドを使用して、利用可能なサービスポリシーを確認してください。

     `network interface service-policy show`
     の詳細については、link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/network-interface-service-policy-show.html["ONTAPコマンド リファレンス"^]を参照してください。

   - `-auto-revert` - 起動時、管理データベースのステータス変更時、ネットワーク接続時などの状況下で、データLIFをホームノードに自動的に戻すかどうかを指定します。*デフォルト設定はfalse*ですが、環境のネットワーク管理ポリシーに応じてtrueに設定できます。

     トランキング グループ内のそれぞれのLIFについて、この手順を繰り返します。

     次のコマンドは、ノード `cluster1_01`のポート `e0c`上で、SVM `vs1`用の `lif-A`を作成します：

     ```
     network interface create -vserver vs1 -lif lif-A -service-policy default-
     intercluster -home-node cluster1_01 -home-port e0c -address 192.0.2.0
     ```

"LIF の作成。"の詳細

4. LIFが作成されたことを確認します。

```
network interface show
```

5. 設定したIPアドレスに到達できることを確認します。

対象	方法
IPv4 アドレス	`network ping`
IPv6アドレス	`network ping6`

関連情報

- "network ping"
- "ネットワーク インターフェイス"

ONTAPボリュームエクスポートポリシーを変更する

クライアントで既存のデータ共有のトランキングからメリットを得られるようにするには、エクスポート ポリシーとエクスポート ルールの変更や、クライアントが接続されているボリュームの変更が必要になる場合があります。LinuxクライアントとVMwareデータストアには、エクスポートに関するさまざまな要件があります。

クライアントのエクスポート要件：

- Linuxクライアントでは、トランキング接続ごと（つまりLIFごと）に、それぞれ独立したマウントとマウント ポイントが必要です。

  ONTAP 9.14.1にアップグレードしていて、すでにボリュームをエクスポートしている場合は、そのボリュームを引き続きトランキング グループで使用できます。

- VMwareクライアントでは、エクスポートされたボリュームに対して、複数のLIFが指定されたマウントポイントが1つだけ必要です。

  VMwareクライアントでは、エクスポート ポリシーにルート アクセスが必要です。

手順

1. 既存のエクスポート ポリシーが設定されていることを確認します。

   ```
   vserver export-policy show
   ```

2. 既存のエクスポート ポリシーのルールが、トランキング構成に適していることを確認します。

   ```
   vserver export-policy rule show -policyname policy_name
   ```

   特に、 `-clientmatch`パラメータによって、エクスポートをマウントするトランキング対応のLinuxまたはVMwareクライアントが正しく識別されていることを確認します。

   調整が必要な場合は、 `vserver export-policy rule modify`コマンドを使用してルールを変更するか、新しいルールを作成します：

```
vserver export-policy rule create -vserver svm_name -policyname policy_name
-ruleindex integer -protocol nfs4 -clientmatch { text | "text,text,…" }
-rorule security_type -rwrule security_type -superuser security_type -anon
user_ID
```

"エクスポートルールを作成します。"の詳細

3. エクスポートした既存のボリュームがオンラインになっていることを確認します。

```
volume show -vserver svm_name
```

NFSトランキング用のONTAPボリュームまたはデータ共有を再マウントする

非トランクのクライアント接続をトランク接続に変換するには、Linuxクライアントやvmwareクライアントの既存のマウントをアンマウントし、LIFに関する情報を使用して再マウントする必要があります。

"サポート対象のクライアント"について学びましょう。

VMwareクライアントのアンマウントは、データストア上のすべてのVMに悪影響を及ぼします。代替案としては、トランキングを有効にした新しいデータストアを作成し、*storage vmotion*を使用してVMを古いデータストアから新しいデータストアに移動する方法があります。詳細はVMwareのドキュメントをご覧ください。

Linuxクライアントの要件

ONTAP 9.16.1以降とLinuxクライアントとしてRed Hat Enterprise Linuxバージョン8.7以降（RHEL 8の場合）または9.2以降（RHEL 9の場合）を使用している場合、トランキンググループに必要なマウントポイントは1つだけです。エクスポートしたボリュームをマウントするには、次のコマンドで `trunkdiscovery`オプションを使用します：

```
mount <lif_ip>:<volume_name> </mount_path> -o trunkdiscovery,vers=4.1
```

それ以外の場合は、トランキンググループ内の接続ごとに個別のマウントポイントが必要です。エクスポートされたボリュームをマウントするには、次のようなコマンドを使用し、 `max_connect`オプションを指定します：

```
mount <lif1_ip>:<volume_name> </mount_path1> -o vers=4.1,max_connect=16
```

```
mount <lif2_ip>:<volume_name> </mount_path2> -o vers=4.1,max_connect=16
```

バージョン(vers）の値は `4.1`以降である必要があります。

`max_connect`値はトランキンググループ内の接続数に対応します。

VMwareクライアントの要件

トランキング グループ内の各接続のIPアドレスを含むMOUNTステートメントが必要です。

エクスポートしたデータストアをマウントするには、次のようなコマンドを使用します。

```
#esxcli storage nfs41 -H lif1_ip, lif2_ip -s /mnt/sh are1 -v nfs41share
```

`-H`値はトランキンググループ内の接続に対応している必要があります。

著作権に関する情報

商標に関する情報